

2016年車椅子報告書（インド障害者福祉協会）

はじめに：

日本のボランティアグループ「海外に子ども用車椅子を送る会」（以下、「送る会」）の協力を得て、Jan Vikas Samiti（JVS）は、90台の子ども用車椅子を障害のある子どもたちに贈ることができた。「送る会」からは片野理事と秋子理事が今回のプロジェクトのために訪印し、車椅子を贈呈してくれた。



片野氏は、JVSが行う障害者支援の仕事に満足の意を示し将来的にもJVSと協力関係が継続できると嬉しいと述べた。秋子氏のプレゼンテーションにより、「送る会」がこれまで23か国の様々な団体と協力してきたことが良く理解できた。

車椅子の配付：

車椅子の配付は、JVSが認めたインド国内の各団体・組織のニーズに応じて実施された。車椅子と補助具や歩行支持器などがJVSから7団体に贈られ、79人の子どもたちが受け取った。

下表がその詳細

No	贈呈先組織名称	地区	台数
1	Jan Vikas Samiti	Varanasi	39
2	Sanchar	Kolkata, West Bengal	5
3	Mobility India	Kolkata, West Bengal	11
4	Karuna Social Service Society (Premdham)	Uttarakhand	9
5	Sacred Heart Convent	Assam	5
6	The Sisters of St. Charles Society	Jharkhand	1
7	Bethany Society	Meghalaya	9
贈呈する子どもが確定した車椅子の合計台数			79
贈呈する子どもが未定の車椅子の台数			11

車椅子使用の効果：

「送る会」から贈られた車椅子は、障害を持つ子どもたちの生活をよりよく、また意味のあるものに変えている。車椅子のお蔭で、子どもたちは家の中は勿論、家の周りにも移動の範囲を広げることができている。周囲の人々に頼りきりだった子どもたちが、今は最小の介助で移動することができる。松葉杖のようなこれまでの装具では、特に雨季などは滑りやすく、長い距離の移動は困難であった。贈られた車椅子は良い状態である。



地域社会に与えた影響：

今回のプロジェクトは、地域社会においても意味のある変化をもたらしている。地域の人々はこれらの子どもたちが受けた支援に気づき、障害児に対する地域の人々の意識も変わってきた。これまで家の中にいた子どもたちは、外に出て地域の人に会うことにより自分を誇らしく思うようになった。子どもたちの車椅子は、慈善団体や政府から配られたものに比べて、高品質で耐久性がある。

車椅子使用の評価：

国内の各団体が車椅子使用状況の調査を行っている。詳細は下記の通りである。

A) 身体的、精神的健康の改善

移動の自由を得たことは、どの子どもにとっても大きなインパクトがあり、子どもたちが社会の一員となる重要な一歩となった。障害児は身体上の困難だけでなく、精神的にも問題を抱えている。家の中に閉じこもっていることで挫折感を味わいコンプレックスを持ってしまう。しかし、車椅子を使って動き回ることによって、子どもたちは自信を持つ。車椅子を受け取った約50%の子どもたちが身体的にも精神的にも健康が回復したと答えている。



B) 家族の負担の軽減

障害児は時として家族からは重荷とわれてしまう。家族はどこに行くにも子どもを抱きかかえなければならぬため、お祝いごとや家族の行事の時には家に置いて行かれたり、世話をきちんとしてもらえないこともあった。しかし、車椅子が届いてからは移動が楽になり、家族の負担は軽減された。70%以上の家族が介助の負担が減ったと答えている。

C) 身体的機能の改善

障害児の身体的機能は適切なケアがされないと成長に限界がある。子どもたちも困難を感じていただろう。しかし、車椅子による移動の自由に加えて正しい姿勢を保つことで、身体的機能は大いに改善された。50%以上の子どもたちに身体的機能の改善が見られる。

D) 日常生活の変化

これまで日常生活を満足に送ることができなかつた子どもたちが車椅子を使い始めて変化を感じている。70%以上の保護者が子どもの生活が改善したと答えている。

E) 家の中での行動

子どもたちは車椅子で自由に動けることを喜んでいる。地方で家の設備が整っていないと家の中を動き回ることが難しいところもあるが、ほぼ90%の子どもが家の中の行動が自由になったと答えており、家族もまた動きが自由になった子どもを見て喜び、車椅子の提供者たちに感謝している。

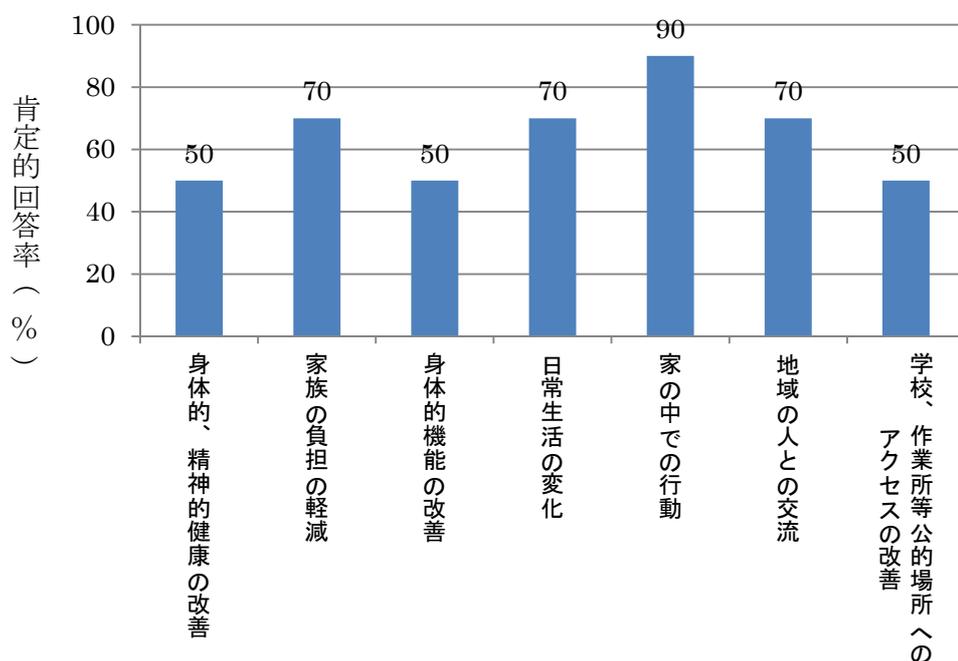


F) 地域の人との交流

車椅子は子どもたちが外に出て地域の人と交流する点で大きな力となっている。子どもたちは今や近所の家や集まりなどにも出かけることができ、人々もまた子どもたちを受け入れ積極的に支えるようになってきている。子どもたちの70%が地域の人との交流に改善があったと答えている。このことは、子どもの姿が地域で見られることにより支援が始まることを示しており、こうしたソフトな支援が助け合う社会の実現を促し、また関係者が必要な設備を設置して、バリアフリーにすることに貢献するだろう。

G) 学校、作業所等公的場所へのアクセスの改善

外出したいと思っても設備上のバリアがあると社会参加は難しい。障害児は出かける方がよいと思ってしまう。しかし車椅子があれば、あまり学校に行かなかった子どもが毎日通学できるようになり、実際子どもたちの出席率は上がっている。50%以上の子どもが車椅子のおかげで通学や社会参加がし易くなったと答えている。



二人の子どもの例：

○Salman は車椅子での新しい生活を体験している

Jan Vikas Samiti (JVS)の連携パートナー組織の一つである Sanchar West Bengal から車椅子を贈られたサルマン (Salman S K、8歳) は、非常に貧しい家庭の出身で、両親は彼のために何かを用意する余裕などなかった。それまでの彼の移動はすべて両親に依存しており、両親は、よくあることだが彼の障害を理解できず、息子を劣った重要でない存在とみなしていた。

そんなサルマンは、2016年に日本の「海外に子ども用車椅子を送る会」から贈られた車椅子を、JVSのパートナー組織である Sanchar によって車椅子を手に入れた。

サルマンの笑顔から、贈られた車椅子の恩恵を受けていることの喜びが伝わってくる。Sanchar の仲介と車椅子の提供で、サルマンとその家族の生活は大きく変わった。それ以前のサルマンの生活は一日中寝たきりで、人生の一環として教育を考えたこともなかった。両親は彼が家族にとって大きな負担になると感じていた。

しかし、今彼は喜んで車椅子で学校に通っている。彼の兄が登下校に付き添っている。兄はまた彼を家の中だけでなく外にも連れて出ている。車椅子を使用して、サルマンは親戚や隣人の家に行き、社会活動、宗教活動、学校での文化活動に参加している。彼は社会から受け入れられ、学校の両親や先生に愛されていると感じている。彼は学



校にとって当たり前存在になったのである。そのことでサルマンに独立心も芽生えた。車椅子は、彼が行きたいところに連れて行ってくれるのだ。

車椅子は、完全な移動の手段となり、彼と家族にとって幸せの源となった。家族は「海外に子ども用車椅子を送る会」がサルマンに、生きる喜びと生命の源泉を与えてくれたとたいへん感謝している。

○両親に放棄された子供に救済の道をもたらす

ビブハ (Vibha) は 10 歳の脳性麻痺児である。家族は 23 人の大規模な共同家族で 5 人の姉妹がいる。ビブハは正常に生まれたが、黄疸の影響と、適切なケアと投薬の不足で脳性麻痺の障害が出た。

彼女は完全に寝たきりだった。両親は彼女が成長できると思わず、彼女は死のベッドにあった。体中に床ずれができて、誰も彼女が生きのびることはないと思っていた。

Community-based Rehabilitation (CBR) コーディネーターは家族全員と話をし、そのことが家族の転換点になった。母親は CBR メンバーの無私の奉仕を見て、自分も娘の世話を始めた。

彼女は JVS の Muskan デイ・ケアセンターの支援も受けている。これまでは母親が彼女をセンターに送り迎えしていた。車椅子がない頃、彼女はいつもベッドの上で寝ていた。そのようなビハブに「海外に子ども用車椅子を送る会」の支援で車椅子が贈られた。

ビブハの母親は車椅子を受け取ることで安堵した。彼女は、ビブハが車椅子を使うようになって非常に快適だと言っている。彼女の生活は大いに改善された。それまでは、ベッドでいつも泣いていたが、車椅子に座わるようになって彼女は静かにしているようになった。母親は、彼女を農場に連れていくことができ、兄弟は村のあちこちに彼女を連れて行き、一緒に遊ぶこともできるようになった。

ビブハは、どこにでも移動できるようになったのである。また、ビブハは車椅子にヘッドレストがついていることを喜んでいる。ビブハには成長できる可能性が大きく広がっている。母親は、今では娘が成長し普通の生活が送れるようになることを願っている。家族は、負担が少なくなったと感じている。ビブハは、車いすの助けを借りて、友人との集まり、家族の集まりなど、様々な機会に外出することができるようになった。

家族は、娘の生活環境が改善されてとても喜んでいる。JVS と「海外に子ども用車椅子を送る会」のおかげで、娘が自由に動きまわれるようになったと感謝している。



お願い：

A) もう少し小さいサイズの手椅子があると多々の子どものニーズに答えることができます。

B) インドでは道路の状態がよくない所が多いので手椅子のタイヤが大きいものであると使い易く子どもが自分で操作するのも楽になります。

C) 手椅子だけでなく、座位保持、歩行器など、また電動の手椅子があるとありがたいです。

D) Varanasai に手椅子を届けるには運搬費がかかります。そのため資金が得られるとうれしいです。

結論：

「海外に子ども用手椅子を送る会」の協力により、たいへん多々の障害児を支援することができました。またこのプロジェクトは、子どもたちとその地域に大きな影響を与えています。障害児たちは動く手段を得ただけではなく、社会参加も可能になったのです。このように、手椅子は子どもの家族をサポートし、障害児には力を与えました。JVSはこの場を借りて子どもたちとその家族に代わり「送る会」にお礼を申し上げます。そしてまたインドの受け入れ団体として私たちを選んでくださったことにも感謝します。JVSはさらに多々のインドの障害児を支援できるよう「送る会」と協力して、このプロジェクトが継続させていきたいと考えています。

世界中の障害児のサポートに努めている「海外に子ども用手椅子を送る会」とその支援者の皆様に厚くお礼申し上げます。

以上